第１部パネル　分科会 6　継続／大阪38、39

ニーズの掘り起こしと担い手の発掘

提言

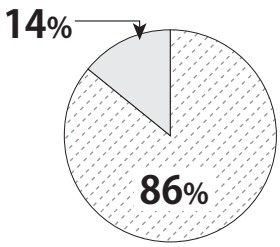
住民主体の活動創出は
「ニーズの掘り起こし」と「担い手の発掘」が鍵。
困りごとに触れると、自然に人が動き、
担い手につながっていく。
両方が一緒にできる
「町内会レベルでのワークショップ」を
積極的に実施していこう！

登壇者

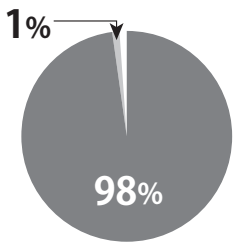
【進行役】　髙橋　望　（公財）さわやか福祉財団
奥田　久美子氏　庄原市第２層ＳＣ
斉藤　節子氏　南アルプス市第１層ＳＣ
斎藤　主税氏　村上市第２層ＳＣ
平野　歌織氏　長野市第２層ＳＣ
髙木　佳奈枝氏　（社福）竹田市社会福祉協議会（元第１層ＳＣ）

アンケートの結果　参加者概数：311名　回答者数：126名

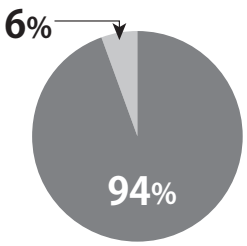
回答者の所属先



助け合い活動をすすめる立場の方



その他の方



議事要旨　髙橋 望

「住民主体の活動づくりは難しい」
このような地域の声は多数あるが、聞いてみると「ニーズの掘り起こし」や「担い手の発掘」が実践されていない状態で「できない」とフリーズしてしまっている例も散見される。本分科会では、住民活動の推進力となるこの２点の実践者から報告いただき、これらの意義や効果、具体的な実施方法について議論した。

髙木佳奈枝氏（竹田市）からは、日常生活支援機能も併せ持った地域の居場所「暮らしのサポートセンター」の設立プロセスが報告された。ニーズ把握のために個別聞き取り訪問調査を行ったが、その調査員も住民で行うために養成講座からスタートしている。生活者の「リアルなニーズ」に触れた調査員はその後、サポーターとして活躍したり話し合いの場に継続参加して盛り立てている人が多い様子が伝えられた。

奥田久美子氏（庄原市）からは、総領さいたらの会（第２層協議体）が紹介された。協議体名を参加メンバーで考えることで会の役割を共有し、自分事の意識を高めている。和気あいあいの雰囲気を意識して毎月開催しており、その中から自分たちでできる対応策のアイデアが出てきている。現在は「メリメリレンジャー草刈り協力隊」に続く困りごと解決を話し合っており、実践報告会等で市民への取組周知にも力を入れていることが報告された。

斎藤主税氏（村上市）からは、地区の状況をグラフで見える化することで共通認識として住民同士で考える際の土台としている手法の報告があった。データ分析は難しい印象が先行して住民に嫌われるように思いがちだが、実際には柔軟に受け止められている様子も報告された。住民アンケートは中学生以上の全住民を対象とすることで自分事として考える間口を広げ、直接配布・直接回収方式で回収率９割を達成している。これらを単に情報として共有することに止めず、集落座談会で活用することで課題解決アイデアへと育てている点がポイントだ。

平野歌織氏（長野市）からは、既存の住民懇談会にワークショップ形式を取り入れ、リアルなニーズに触れたことをきっかけに住民活動が立ち上がっていった様子が報告された。「まずはきっかけづくり」と考え、「ふれあいラジオ体操」や「コーヒー淹れ方教室」を企画、趣味講座の参加者から地域福祉活動の担い手が生まれていく事例も紹介された。

斉藤節子氏（南アルプス市）からは、話し合いの場はつくったが進まなかった例も取り上げ、わかってはいるけどやらない住民もいる実態が提示された。そんな住民もその後ニーズに気付くことで目覚め、人が人を育てる連鎖が地域を変えていく様子が報告され、住民が住民に伝えることの重要性が伝えられた。

どの取り組みも、足を止めることなく実践し続けていることが特徴的だ。地域での取り組みは上手くいくことばかりではないが、その都度、住民と一緒に考えながら進めていくことで、少しずつではあるが、理解者となって手伝ってくれる仲間が増え、仕掛けのチャンネルも多彩になっていく様子も窺えた。
「考えるだけでなく、まずはやってみよう！」と、ＳＣからの力強い呼び掛けもあった。

報告の共通項は「話し合いの場を持つことが重要」だということだ。ただし、単に場を持つだけでは前には進みにくい。参加者の「やる気」を生み出す工夫が必要で、その基礎情報となる「ニーズ」と、解決への前向きな場の継続が「担い手の種まき」に繋がっている。
「共感の拡大」のための実践手法は色々あるが、ニーズ把握と担い手発掘の両方を一緒にできる小単位（自治会単位）でのワークショップを実践し、活動創出に育てている実践者が多かった点も興味深い事項であった。

以上の協議から提言がまとめられ、各登壇者から、会場とオンラインの参加者に地区実践に向けてのエールが送られ終会となった。

■ 寄せられた声から

- 私は、専門職ではないですがＳＣをしています。日々、専門職ではない自分に何ができるか考えておりました。平野氏の「考えるだけでなく、まずやってみる！」という言葉が印象に残りました。自分で「できない」と決めつけるのではなく、まずやってみることが必要と感じました。
- 住民へのアンケートで、「今困っていることは何ですか」では「何も困ってない」という回答が多くなるが、「最近ちょっとしんどくなってきたことは何ですか」から話が広がった、という言葉が印象に残っています。